

東西線南行徳駅リニューアル

東京メトロ（本社：東京都台東区 社長：奥 義光）では、平成 23 年 1 月から東西線南行徳駅において駅改良工事を実施してまいりましたが、平成 24 年 3 月 23 日、環境に配慮した駅として生まれ変わりました。

今回の南行徳駅リニューアルでは、ホームの一部に自然光の透過性が高い膜屋根を弊社として初めて採用したほか、千代田線北綾瀬駅に続き 2 駅目になる太陽光発電システムや副都心線等の駅で採用してきた LED 案内看板（サインシステム）等も導入し、省エネルギーの環境保全効果を高めるとともにリニューアルによるデザイン性の向上で駅をご利用されるお客さまへ快適な空間を提供できると考えています。

東京メトロでは、今後も環境負荷低減、お客様に親しまれる駅づくりに努めてまいります。

南行徳駅における環境に配慮した設備の概要は、別紙のとおりです。



リニューアルした東西線南行徳駅の全景



中央部に膜屋根を導入した南行徳駅ホーム

【南行徳駅の概要】

所在地	千葉県市川市相之川4-17-1
開業年月日	昭和56年3月27日
乗降人員数	49,759人（2010年度1日平均）

【南行徳駅環境配慮設備概要】



① 太陽光発電システム

最大容量約 40kW の太陽光発電パネルを、2 番線(中野方面行き)ホームの屋根上に設置しました。供給された電力は、駅のエレベーター・エスカレーターの動力等に使用しています。

なお、1、2 番線ホームの待合室に液晶ディスプレイを1台ずつ設置しており、太陽光発電システムから供給される電力量などがタイムリーに確認できるようになっています。

【パネル面積】 295.68 m²

【発電能力】 40.3kW

【電力削減効果】 年間 35,900kWh の発電量を見込んでいます。

(南行徳駅のエレベーター(2基)・エスカレーター(2基)等の動力に使用する電力を賄う規模、CO₂削減効果：約 19t)



② 膜屋根

駅ホームの中央部に、自然光の透過性が高い膜屋根を設置しました。これにより、自然光を採り入れた明るく快適な駅空間を生み出しています。

また、ホームを6つのブロックに分けそれぞれに設けたセンサーで照度を検知し、ブロックごとにきめ細やかな照明操作を行います。



③ LED 案内看板

駅構内の案内看板(サインシステム)に、長寿命でエネルギー効率の高い LED 内照式のもの采用了しました。これにより、消費電力の約 40%削減を見込んでいます。

④ インバーター照明機器

少ない消費電力でも発光効率が高い Hf インバーター照明機器を駅コンコース、ホーム、待合室などに導入しています。照明機器の更新により、消費電力の約 20%削減を見込んでいます。

⑤ 高効率変圧器

省エネ法に基づくエネルギー消費効率の基準値をクリアしたトップランナー変圧器を導入し、送電システムで避けられない電力ロスの損失を抑制しています。